

川のゴミの現状 ～荒川の場合～

海に流れる川のひとつ、私たちが住む日本の川は現状どようになっているのでしょうか。荒川を例にとってみましょう。

都市を流れる荒川は、植物が茂り、虫や鳥、魚など多様な生き物が棲む自然豊かな川です。ところが、一歩水辺に近づいてみると、ペットボトル、レジ袋、カップ麺の容器、飲料缶、タイヤやテレビ……驚くほどのゴミが積み重なっています。



川で拾われなかったゴミは、海に流れ出て世界中の海や島の自然環境を破壊しています。海から見ると、海のゴミの8割は川から流れて来るといわれています。ですから、海に出る前に、川で拾うことがとても大切なのです。



「調べるゴミ拾い」荒川クリーンエイド活動

地球温暖化や生物多様性の損失など地球規模の環境問題の解決がまったなしの状況となり、それぞれの地域で解決の取り組みが始まっています。そのひとつとして、身近な川での「調べるゴミ拾い」という活動を紹介します。

荒川では、ヨシ原や干潟に取り残されたゴミを調べながら拾う、荒川クリーンエイドという活動が20年前から行われています。どうして拾うだけでなく調べるのでしょうか。それは、荒川のゴミを調べると、人間が出し続けているゴミが地球環境を痛めつけていること、そして、私たちの生活の在り方や社会のしくみがそれに大きく関わっていることが見えてくるからです。

荒川クリーンエイドでは、荒川流域のゴミの調査データを集約して、マスコミ、展示会、荒川河川敷などで伝え、川ゴミの問題の重大性を広く知らせています。また、荒川をはじめとする川や海のゴミのデータは、国際ゴミ調査(ICC: International Coastal Cleanup)に提出され、世界の海ゴミ問題の解決にも役立てられています。

本書を通して、「調べるゴミ拾い」荒川クリーンエイドを事例に、川からどんな環境問題が見えてくるのか、そして、その問題をどのように解決することができるのか、いっしょに考えてみましょう。



散乱ゴミ上位20

(荒川クリーンエイド 2013 で回収)

